



＜防災減災イノベーションカフェ2017＞

『視点。78カ月目の現在とこれから』

～市民が見つめる“より良い復興”の現時点検証～

平成27年3月に仙台で開催された第3回国連防災世界会議で採択された『仙台防災枠組2015-2030』には“Build Back Better(より良い復興)”を目指すことが明記されています。

東日本大震災から78カ月、いまだ復興途上である被災地にとって“Build Back Better(より良い復興)”はなされてきているのでしょうか？
これまでの、そして現在の課題。なしとげられてきたこと。

その双方を見つめ、被災地での課題解決を進めるイノベーションの正しい方向性を見きわめるために市民視点で現在とこれからを見つめます。

Schedule

13:30	開会挨拶
13:40	基調発表(分科会モデレータ4人)
14:20	視点提供
14:50	分科会 4エリアのテーマから
15:30	休憩
15:40	MIXED分科会「BBBは進んだか」 MIXEDクロスオーバーメンバーでの再討議
16:00	分科会報告(当初テーマに基づき)
16:20	パネルディスカッション+全体討議
16:50	閉会挨拶

10/29 (日)

入場
無料


定員100名

13:00 開場

13:30~16:50

会場:かほくホール

〒986-0827 宮城県石巻市千石町4-42



石巻市 日和山公園からの眺め

主催: 防災・減災日本CSOネットワーク (Japan CSO Coalition for Disaster Risk Reduction)

<http://jcc-drr.net/about/>

ONAGAWA「より良い復興まちづくり」

女川町

モデレータ： NPO法人アスヘノキボウ 人材事業部：中村志郎氏

女川町では被災後、新たなまちづくりを期して大胆かつ徹底した世代交代を意識的に行った。また被災地支援団体が地域に定着、新たなまちづくりを仕掛けている。被災後の歩みが異なる沿岸の街の多様性についてもとらえていながら、復興まちづくりについてその課題や、歩みの成果を振り返り、問題提起を行う。

外来者

世代交代

共創

ISHINOMAKI「より良い復興とネットワーク」

石巻市

モデレータ： Y A H O O石巻/一般社団法人フィッシャーマンジャパン：松本裕也氏

若手漁師によるフィッシャーマンジャパンはビジュアル面の統一ディレクション導入、新需要開拓など、一次産業の未来を切り開こうとしている。その石巻事務所では、イオンにオリジナルな売り場を出す、CCCと合同商品開発を行う、など企業協働を推進する。こうした中、同事務所のマネージャは石巻に在る主要な団体のキーマンたちと密なネットワークを有してもいる。被災後最も多くの団体が入った石巻において、復興に向けての取り組みの中で、人的ネットワークが構築されてきている状況を評価し。こうしたネットワークの発生と現況を考察、より良い復興における人的ネットワーク構築の有効性や課題を考える。

新たなセクター

企業と団体の協働

復興人ネットワーク

石巻コネクション

OGATSU「より良い復興と合意形成」

(旧)雄勝町

モデレータ： 一般社団法人 雄勝花物語 代表：徳水博志氏

壊滅的な津波被害で、中心部人口は1600人から100人に激減、中心部の高台移転希望者は28世帯となってしまった雄勝。復興住宅に移転を余儀なくされた人々はつながりを絶たれ、また地域の資源そのものである自然は防潮堤により、その循環を分断されてしまった。防潮堤建設への合意形成の実情は「より良い復興」といえるのか。今なお、苦難を深く抱える地からの根源的な問いかけ。

人口激減

地域資源の崩壊

住民参加

合意形成

環境権

防潮堤

KAHOKU「より良い復興と次世代育成」

(旧)河北町

モデレータ： 一般社団法人 石巻・川の上プロジェクト プロデューサー：菅原大樹氏

旧河北町は高台移転先となったことから、他地区と異なり新住民が増加している。それに伴いコミュニティの有り方に課題が発生してきた。そうした課題と向き合う地域づくりの団体の取組例をひきながら、被災地における「次世代の育成環境づくり」等を見つめる。

移転先

新住民増加

次世代

コミュニティ

教育